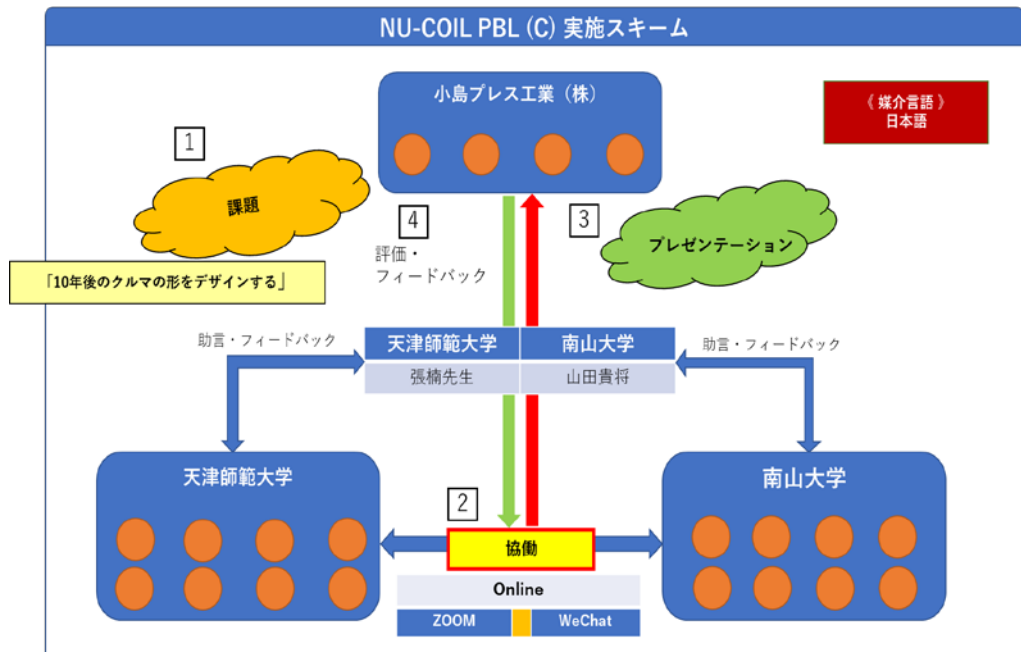


担当教員名	山田 貴将	所属 (学部学科)	国際センター
実施年度・クォーター	2021・Q3		
授業名	南山	国際産官学連携 PBL C	
	パートナー	第2 課堂	
カテゴリ	ベーシック COIL	アカデミック COIL	<input checked="" type="checkbox"/> PBL COIL
パートナー教員名	張楠	パートナー所属	Tianjin Normal University 天津師範大学
参加	南山	17 名	
学生数	パートナー	23 名	
使用言語 (複数回答可)	英語	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語	その他言語 ()
使用ツール (複数回答可)	Facebook LINE Skype YouTube Canvas <input checked="" type="checkbox"/> その他 (ZOOM, WeChat)		
交流内容 (概略)	<p>本プロジェクトでは、小島プレス工業（株）から提供された「10 年後のクルマの形をデザインする」というテーマに関して、本学と天津師範大学（日語系）の学生が日本語を使用言語としてオンラインで協働した（7 回の授業の内、4 回を同期型で行うことができた）。</p> <p>以下の図の通り、初回授業では、小島プレス工業（株）からプロジェクトのゴールやスケジュールが提示された。また、アイスブレイクを通じてグループ（南山 2~3 名、天津 3~4 名からなる混合グループ）メンバー間の相互理解を深めた。その後約 7 週間に渡り、最終報告会でのプレゼンテーションに向けて、非常に活発なオンライン・グループ交流が行われた。本プロジェクトを通じて、参加学生は異文化協働のスキルを高めただけでなく、国境を超えた人間関係の構築を実現することができた。</p>		

〔PBL C実施スキーム〕



〔PBL C 授業内容〕

国際産官学連携PBL (C)

第1回	9月20日	オリエンテーション、小島プレス工業 (株) 講義、グループ交流	同期	南山・天津・小島 (動画提供)
第2回	9月27日	【講義】異文化コミュニケーション①、ゲストスピーカーによるプレゼン (前年度PBL履修者)	非同期	—
第3回	10月4日	【講義】異文化コミュニケーション②	非同期	—
第4回	10月11日	中間報告会	同期	南山・小島プレス
第5回	10月18日	【講義】プレゼンテーション技法	非同期	—
第6回	10月25日	天津師範大学・張楠先生によるミニ講義、プレゼン最終調整	同期	南山・天津
第7回	11月8日	最終報告会	同期	南山・天津・小島

期間・回数

9月20日～11月8日

評価方法

提出物 30%、最終レポート 30%、授業内外での取組への積極性 10%、プレゼンテーション 30%

コメント

天津師範大学の学生との協働型交流を通じて、本学の学生は、異文化間コミュニケーション能力や国際感覚だけでなく、自主性や主体性も高めることができたと考える。その背景にある要因として、本プロジェクトの課題は、仮想のもではなく、優れたアイデアは小島プレス工業（株）が実際の商品企画の際に参考にする可能性がある、という意味で非常に高い Authenticity を有しているという点が挙げられる。自分達の発案したアイデアがもしかしたら企業の役に立つかもしれないという「リアル感」が学生の取組をより主体的にしたと言えるだろう。

また、本学の学生は天津師範大学の学生とコミュニケーションを図る際に、自らが言語的に dominant な立場にあることを認識し、相手の proficiency や理解度に併せて自らの発話を調整することが求められた。そのような言語調整のプロセスで、本学の学生は自らが関わっているインターアクション全体を俯瞰する能力をも養うことができ、それが自主性や主体性の更なる向上にも貢献したのではないかと考えられる。実際、授業後に実施したアンケート調査において自主性及び主体性かわる以下の項目で非常に高い値を示している。

- ・ 学習意欲が高まった (87%)
 - ・ 向上心が高まった (87%)
 - ・ 責任感が強くなった (80%)
 - ・ 時間管理ができるようになった (80%)
- (「強くそう思う」と「そう思う」を合計した値)

参加学生には本プロジェクトで身に着けた自主性や主体性を活かして、国境を越えてチャレンジングなことに挑んで頂ければと考えている。